

新潟市関屋海岸におけるトラツグミの移動傾向

°千葉 晃・小松吉蔵・伊藤泰夫
(日本標識協会にいがたグループ)

【はじめに】トラツグミは日本国内の低山から山地の林で繁殖し、北部地方に分布するものは冬季暖地に移動するといわれ、本州中部以北には春3月頃渡来し、秋は11月下旬頃まで留まると考えられている。しかし、本種の渡りに関する情報は極めて少なく、移動の時期や経路、外部形態の雌雄差、移動時における生理成熟状態など基礎的事項は殆どわかっていない。そこで、新潟市の海岸林において1988年以来15年間にわたり収集された標識結果の中から本種に関する部分を抽出・整理し、本州中部日本海沿岸における移動傾向を分析してみた。また、標識隣接地で拾得された本種3死体の肉眼および顕微解剖結果を標識時の計測結果と合わせ、生理・成熟状態を推察してみた。

【材料と方法】調査地の位置や環境の概況は前の発表要旨に記述したとおりである。一部新鮮な死体については、摘出した臓器を5%中性ホルマリンおよびブアン氏液で固定し、常法によってパラフィン切片を作製した。そして、免疫組織化学も取り入れて染色し、光学顕微鏡下で検索した。

【結果】調査地で捕獲・標識されたトラツグミはごく少なく、15年間28季(14春季・14秋季)の調査で総計68羽に過ぎなかった。年によって調査時期や期間は異なるものの、仮に春季とした上半期の調査期間(2月~6月)で小計53羽、同じく秋季調査期間(7月~12月)で15羽が記録され、秋より春の通過個体数が多い結果が得られた。この傾向は日捕獲率(捕獲数/各季節の作業日数)の平均値(春季0.043; 秋季0.015)にもよく示された。春の捕獲期間は4月初旬から6月中旬に及び、4月中・下旬に多くの個体が標識され、一方秋は9月中旬から11月上旬に捕獲され、10月に移動する個体がやや目立った。29羽の体各部計測結果(単位mm、g)は以下のとおりである: 翼長(範囲149-166; 平均156.3)、尾長(97-113.1; 106.2)、フシヨ長(30.3-39.9; 36.1)、嘴峰長(22.0-27.0; 24.6)、体重(133-179; 151.9)。これらのうち体重に関しては、清棲(1965)の記載した値(260-278)と比べ大きな不一致が認められた。体サイズにはかなり大きな個体変異が見られるものの、解剖例から推定すると、大形個体が雄、小形個体が雌である可能性が高いものと考えられる。10月10日に拾得された新鮮死体1例(翼長163、体重165)は雄幼鳥で、皮下に大量の脂肪蓄積が認められた。また、精巢(左右合計6mg)は卵形でメラニン沈着が目立ち、ごく未熟であった。なお、組織像からみた甲状腺活動は低い状態と推察された。